

脳卒中の作業療法 最前線

澤 俊 二
(岐阜保健大学, 作業療法士)



2018年(平成30年)12月,私にとって待ちに待った法律が制定された。その法律名は,「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中,心臓病その他の循環器病に係る基本法」である。「脳卒中・循環器病対策基本法」とも呼ばれている。10数年前,日本疫学会と日本脳卒中協会等が合同で「脳卒中对策基本法」の成立を厚生労働省に,国会に働きかけていた。その素案でリハの項目を書いてみないかと磯博康氏(現 大阪大学大学院教授・日本公衆衛生学会理事長),北村明彦氏(現 東京都健康長寿医療センター研究所研究部長)から誘われ,脳卒中の予防から終末期に至るまで,リハの図を描かせていただいた。しかし,その後の政治のごたごたで日の目を見ることはなかった。今回,名称と趣旨を変え実現した。そして,この「脳卒中・循環器病対策基本法」を具現化するために,2020年(令和2年)に「循環器病対策推進基本計画」が出された。脳卒中のリハ,リハ医療に与える影響は計り知れない。なぜならば,予防,そして,急性期・回復期・生活期・緩和ケアに,また,介護,福祉,就労支援,研究等に,さらに,地域包括ケアシステムの構築等に計画的な実績が求められるからである。

さて,70名以上ものOTらが執筆にかかわった『脳卒中の作業療法 最前線』は,この「脳卒中・循環器病対策基本法」および「循環器病対策推進基本計画」を強く意識した佐尾健太郎氏が企画したも

のである。氏は,基本計画をよく理解され,それを深める先駆的な試みをされた。

第1章は,「総論」として,「脳卒中とは」から始まり,脳卒中のリハ,そして,脳卒中における作業療法を取り上げる。第2章は,「技術支援Ⅰ 急性期から回復期の基礎」として,リスク管理から,基本動作支援,ポジショニング,シーティング,摂食嚥下に対する作業療法,そして,とても重要な,心理的問題とその対応等が挙げられている。それを受けて,第3章は,「支援技術Ⅱ 急性期から回復期の個別性を重視した介入(事例報告)」が組まれている。幅が広く,高次脳機能障害,認知症,上肢装具,上肢機能へのアプローチ,住環境整備と続く。そして,第4章は,「支援技術Ⅲ 生活期:生活の広がりに向けて」として,MTDLP,訪問リハ,通所ケア,老人保健施設,自費(保険外)リハ,家事動作,自助具・福祉用具,アクティビティ,就労支援,運転,公共交通機関の利用,ICT,スポーツ,避難所生活,外出・旅行への支援,そして,終末期における作業療法支援,と実に多岐にわたる作業療法支援技術が展開されている。最終第5章は,「他職種・家族等との連携」が取り上げられ,多職種連携や公的制度外で活躍する団体の活動,そして,最後に脳卒中と地域リハが語られている。

どうだろうか。最前線の内容は範囲が広く,事例で深く学べるよ

うになっている。

私は,OTとして40年以上にわたって脳卒中の作業療法にかかわってきたが,自分が抱えてきた課題に対して多くの示唆を受けることができた。特に,作業療法の目標設定,障害像と作業療法の過程,肩の痛み,トイレ動作の捉え方と評価・アプローチ,脳卒中の就労支援,避難所生活支援,そして,終末期における作業療法の役割と支援の実際等……。70歳にして臨床の場にいたい,実践をしたいと思った。意欲が湧いてきたことに感謝したい。

最後に一言。私は,茨城県をフィールドに,慢性脳卒中者の心身機能の推移,生活機能の推移,介護保険法等の資源の影響等を知るために,追跡調査研究を行って21年目になる。当事者が異口同音で言われたのが,脳卒中になったことへの驚きと苦悩,将来への不安,そして,スタッフへの感謝の言葉であった。私は,21年前の患者の皆さんにこの特集号を読んでもらいたい。不安の中で,指針を見だし,安堵されたと思う。ただ,専門用語が多く真に理解をしていただくのは難しいだろう。脳卒中の当事者が易々と,そして,喜々として読めるような一般向けの作業療法の本にまで昇華していただきたいと切に願う。

B5判 280頁 4,000円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357